

2007.2

「映画のまち調布」部会 第5回楽習会

日本映画はどのように誕生し、 どのように発展してきたか ～調布と撮影所との長い親類付き合いにも触れて～

今から百年ほど前に生まれたもっとも大衆的な、また、もっとも国際的な芸術でありメディアである映画。多様な魅力を持つ映画が、日本ではどのようにして創り始められ、どのように移り変わり、どのようにして世界の人々に愛され、さらには、世界の映画と比べてどんな特色を持つのだろうか。また、日本の文化的風土は、日本映画の中にどう息づいているのだろうか。

なぜ、いくつもの撮影所が調布市に建てられたのだろうか。そして今後のまちづくりに、映画はどう生かされるべきかを考えます。

日時 平成19年2月27日(火) 午後7時～9時

会場 国領駅北口 あくろす2階 第1会議室

講師 吉松 安弘 氏

元帝京大学教授、映画監督・ノンフィクション作家、日本旅行作家協会評議員、
調布市在住

【講師プロフィール】1933年東京生まれ。1957年東京大学卒業、東宝撮影所に助監督として入社

1973年東宝退社、映画監督として契約。後、フリーの監督、脚本家

1976～7年文化庁芸術家在外研修員として留学。主な研修先～米国・仏・ポーランド～

1979年ノンフィクションの執筆を始める。1980～96年日本映画監督協会理事

(監督作品:「陽のあたる坂道」東宝、「神様なぜ愛にも国境があるの」東宝、「さえてるやつら」新星映画など)

(著作:「東条英機 暗殺の夏」新潮社・新潮文庫、「バグダッド憂囚」新潮社・PHP文庫など)

主催 NPO法人 調布まちづくりの会 ～「映画のまち調布」部会～

Tel&Fax042-488-4022

E-Mail: machikai@annie.ne.jp

定員 先着36名(参加費無料)